

10:16 私たちが神をほめたたえる賛美の杯は、キリストの血にあずかることでは  
ありませんか。私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかることでは  
ありませんか。

10:17 パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに  
一つのパンを食べるのですから。

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

### 「聖餐式」を指す7つの用語

◆1, 3, 7の用語については、メッセージを参照。

#### 1. 主の晩餐 (The Lord's Supper)

#### 2. 主の食卓 (The Table of the Lord)

(1) 参照聖句は I コリ10:21

#### 3. パンを裂く (the breaking of bread)

#### 4. ユーカリスト (The Eucharist)

- (1) ギリシア語の「感謝」(ユーカリステオウ)が語源  
(2) イエスが最後の晩餐で感謝をささげた(マタ26:27)ことによる。

#### 5. ユーロギア (The Eulogia)

(1) ギリシア語の「祝福」という意味 (2) 参照聖句 I コリ10:16

#### 6. コミュニオン (Communion)

- (1) ギリシア語「交わり」(コイノニア)の英語訳。  
(2) 参照聖句は I コリ10:16 ※日本語訳は「あずかる」と訳される。

#### 7. ミサ・聖体拝領 (The Mass) : カトリック教会の立場。毎礼拝で実施する。

\*カトリック教会の聖礼典( sacrament)は、「7つの秘跡」と理解され、  
叙階(プロテスタントでいう授手礼)、堅信(幼児洗礼に関連)、結婚、  
病者の塗油、赦しの秘跡、洗礼、聖体)の内に含まれる。  
\*彼らにとっては儀式一つひとつが「恵みの方法」であり、それ自体に霊的な力が  
宿り、人を救う力があると考え、それに合うようにパンとぶどう酒も解釈する。



希望の光バプテスト教会

2021年5月2日(日)

礼拝メッセージノート

## 「 聖餐式の学び～神の恵みの象徴 」

コリント人への手紙第一 11:23～32他 小野寺 望 牧師

### 【 コリント人への手紙第一 11章 】

23 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。

すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り、

24感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたの  
ための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

25食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による  
新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

26ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで  
主の死を告げ知らせるのです。

27 したがって、もし、ふさわしくない仕方でパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、  
主のからだと血に対して罪を犯すことになります。

28だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。

29みからだをわきまえないで食べ、また飲む者は、自分自身に対するさばきを食べ、  
また飲むことになるのです。

30あなたがたの中に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、  
そのためです。

31しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。

32私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることが  
ないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。

(4ページへ続く)

## ◆ はじめに

### | 聖餐式を見つめなおす

#### 1. 当教会で二か月に一回行う聖餐式の意義を再確認する。

- (1) このテキストは保存しておいて、必要になったら聖句と共に読み返す。
- (2) 論争になりやすい教理について、他者を理解し、自分の立場を確信する。

## ◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | キリストを記念し、聖餐にあずかれ

\* このメッセージは、聖餐式とその恵みについて学ぶものである。

=====

## I 聖餐式とは何か

### 1. 「聖餐式」を指す用語について

- (1) 「聖餐式」という用語そのものは、聖書にはない。
- (2) 英語圏では、7つの名称が用いられる。※余白の都合上3つを取り上げる。

#### A. 主の晩餐 (The Lord's Supper)

- ① 参照聖句 I コリ11：20
- ② 初代教会の信者は共に集い、まず晩餐(つまり食事)を共にした。  
\* 当時の名称「アガベの晩餐」が、日本語の愛餐会の元である。  
\* 晩餐に続き、パンとぶどう酒で聖餐式を行う。コリント教会では問題が起こった。

#### B. パンを裂く (the breaking of bread)

- ① 参照聖句は使2：42、20：7 ② 式中でなされる行為を端的に表す。
- ③ 初代教会で頻繁に行われていたが、その頻度についての具体的な命令はない。

#### C. ミサ・聖体拝領 (The Mass)

- ① カトリック教会で使用される用語である。
- ② 聖書の根拠がなく、神学的にも外れた呼称である。  
\* 「ミサ」という言葉は、「キリストの体を毎回犠牲にする」という意味を含む。

### 2. 聖餐式は聖礼典 (ordinance) である。

- (1) 聖礼典とは、①儀式を通して神が働くことがあっても、儀式そのものに神秘的な力が宿っているのではない。「神の恵みの象徴」である。  
②カトリック教会の聖典・ sacrament とは、意味合いも内容も全く異なる。
- (2) 聖礼典であるための3つの条件
  - A. イエスによって命じられている。ルカ22：19～20「過越しの食事」
  - B. 使徒の働きの中で、実際に行われている。使2：42、46、20：7
  - C. 書簡の中で、詳しく神学的意味が解説されている。
    - ① I コリ10：16～17
    - ② I コリ11：23～31

\*したがって、聖礼典についての聖書の見解は、聖餐式とバプテスマである。

\*ある立場は「洗足式」も加えるが、Cから贖いの象徴とする説明が不十分である。  
(3) 聖礼典は聖書の教えに従順であるために行う、地域教会の使命の一つである。

## II 聖餐式の意味～4つの立場

### 1. 化体説 (Transubstantiation) : カトリック教会の立場

- (1) パンとぶどう酒は実際にキリストの体と血に変化するという理解。
- (2) 反論：①イエスがまだ生きていた時のことばである。②「契約の血です」ということばの真意は、実際に血になったのではなく、契約のしるしであることを表す。  
\* ヨハネ6章は、聖餐式の文脈ではない。

### 2. 実体共存説 (Consubstantiation) : ルター派と聖公会の立場

- (1) パンとぶどう酒の実体は変化しないが、キリストの体の血と実体が、パンとぶどう酒の内に共存する。結局「物理的にある」という点で大差ない。

### 3. 霊的存在説 (The Spiritua Presence) : 改革派教会 (カルヴァン派) の立場

- (1) パンとぶどう酒の内に、キリストの体の血が霊的に存在する。

◆彼らにとっては、聖礼典は「恵みの方法」であり、何かがいってくれないと困る。

### 4. 記念説・象徴説 (A Memorial) ……最も聖書の見解

- (1) ツィングリ (スイスの宗教改革者) が提唱。イエスを記念するもの。  
①パンはイエスの裂かれた体、ぶどう酒は流された血を象徴する。
- (2) 参照聖句 ルカ22：19、I コリ11：24～25、26

## III 聖餐式の目的

- (1) キリストを記念すること I コリ11：24
- (2) キリストの死を宣言すること I コリ11：26
- (3) キリストの再臨の保証 マタ26：29、I コリ11：26
- (4) キリスト、そして信者どうしの交わりの時 I コリ10：21

## ◆まとめ：キリストを記念し、聖餐にあずかれ

1. 結論：聖餐式は確かに、使徒を通して地域教会に命じられた礼典であった。
2. 聖礼典を行う主体：①地域教会で礼拝等で会衆が集まった時に行う。  
②リーダー (牧師、長老など) の主導の下執り行う。
3. 参加資格：①新生体験：未信者にとっては何の意味もない。  
②水のバプテスマ：救いに次いで命じられる行為。教会が施す聖礼典。  
\* 指導者によって、聖餐式を受けるために必要か、見解が異なる。  
③自己吟味 I コリ11：27～28 (命令)、29～31 (守らない場合)  
\* 原点は過越しの祭りで、パン種 (罪の象徴) を除く行為。羊は既に捧げ終わった。  
\* 吟味する内容：知っている限りの罪の告白、パンとぶどう酒が表す意味を覚える、自己の歩みの確認、主の恵みへの感謝と畏怖。